国立研究開発法人の「研究開発成果の最大化」に向けて

- ○固定的な狭い視野・価値観に縛られた業務 運営•研究開発
- ○変化に対応できない硬直的な業務運営・研 究開発
- ○時間軸がずれた近視眼的な業務運営・研究 開発

〇コンプライアンス、会計等に係る不適切な業 務運営、研究不正の発生

の解消

阻害要因

適切な目標の策定・評価の実施 「世界で最もイノベーショ ンに適した国」に貢献して いく国立研究開発法人へ

国立研究開発法人

今般の独法改革に より、法人を類型化 し、国立研究開発法 人は研究開発の特 性等に十分配慮し た制度・運用に



国際競争力の強化

科学技術イノベーション創出

我が国全体

としての 研究開発成果 の最大化

諸政策課題の解決

好循環の 創出·促進

- 〇革新的技術シーズを事業化へ繋ぐ応用研究や成 果の実用化などの橋渡し
- 〇人材の流動性等を通じた優れた人材の確保・育成
- 〇大学・民間企業等の他機関と連携・協力
- ○法人内部の事業間の連携・融合の促進
- 〇研究者の能力を最大限引き出すガバナンスの 構築•強化

等